令和５年度第２回川崎市多摩川プラン推進会議
議事録

1　開催日時　令和６年２月19日（月）午後２時00分～午後３時25分

2　開催場所　川崎市役所本庁舎２階203会議室

3　出席者（敬称略）

委員長	吉冨　友恭	東京学芸大学教授
副委員長	水庭　千鶴子	東京農業大学教授
委員	五十嵐　豊	ＮＰＯ法人多摩川エコミュージアム代表理事
委員	寺尾　祐一	ＮＰＯ法人多摩川干潟ネットワーク理事
委員	小野　貴之	富士通株式会社
委員	堀　良通	市民公募
委員	江原　和人	市民公募
委員代理	堀越　直哉	国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所河川環境課長

4　議事

(1) 多摩川における取組の近況報告について

(2) 令和５年度新多摩川プラン実施事業報告書について

(3) その他

5　配布資料

・次第

・令和５年度川崎市多摩川プラン推進会議委員名簿

・資料１　多摩川丸子橋周辺河川敷の社会実験の模様

・資料２　水循環基本計画に基づく「流域水循環計画」に該当する計画の策定状況（内閣官房水循環政策本部事務局ホームページ抜粋）

・資料３　多摩川水辺の楽校シンポジウム川崎（２月18日開催）の模様

・資料４　令和５年度新多摩川プラン実施事業報告書【多摩川は今】（素案）

6　公開又は非公開の別　公開

7　傍聴人の数　なし

8　発言の内容　次のとおり（要約方式）

―開会―

【事務局】　（事務連絡・会議の成立に関する説明）
【緑政部長】　（挨拶）
【吉冨委員長】　（傍聴人確認）

＜議事(1) 多摩川における取組の近況報告について＞
【事務局】　（資料に基づき説明）

◆１．流域治水の取組について
【堀越委員代理】　気候変動による大雨対策として、地域全体で流域治水の取組が進められている。鶴見川は都市化が進み、浸水被害が発生しやすくなったため、名称は違うが、全国に先駆け流域全体で総合治水対策を取り組んできた。多摩川の流域治水対策にも参考になる事例があると思う。

◆２．かわさき多摩川ふれあいロードにおける英語表記について
【江原委員】　ふれあいロードの英語表示については早急に必要。修復時にやるのでは遅い。特に、外国人観光客が多い二子玉川などではルート表示がなければ、自転車利用者にとっては理解が難しい。事故防止にも繋がるため、二子橋や丸子橋の起点、一番賑わっているバーベキュー場のあたりには速やかに併記をしてほしい。
【事務局】　基本的にはサインの補修時に対応したいと考えているが、多摩川の中でも橋詰め空間などはサイクリングの起点と終点になり利用者も多いことから、このような個所においてはサインの状況を調査して、必要に応じて予算を確保し、進めることを検討する。

◆３．多摩川プランの改定について
【堀委員】　多摩川プランには流域や水循環の視点が欠けている。河川敷のレクリエーション色が強い。多摩川の流域全体を考慮したプラン策定が重要。鶴見川では、慶応大学の岸先生が何十年も活動している。岸先生のような先生を会議に招いて、これまでどのように水循環を実践してきたのか意見を聞いたらどうか。委員よりは行政関係の方が聞いた方が良い。
【吉冨委員長】　プランの改定に向けて、委員や行政も最近のことを学んでいく機会を設けた方が良い。
【事務局】　今後の改定に向けて、 最近の動向や関連することを学ぶ時間は必要であると思っている。こういった会議の時間を活用して、勉強する時間を今後作れたらと思う。

◆４．水循環について

【江原】　水循環はその地域あるいは人にどのような効果があるのか、多摩川のような河川の場合には例えばどういうようなことが考えられるのか聞きたい。

【堀越委員代理】　多摩川は上流にダムが少なく雨が降らないと河川の水量が減る。場所によっては、下水道の処理水が河川の流量の半分以上を占めている。世田谷では、都市開発によるコンクリート化やアスファルト化により水が浸透しづらくなっている問題に対し、緑を増やすなどして水が地面に浸透しやすくする取組が行われている。そうすることで、降った雨がすぐに河川に流れ込むのではなく、ゆっくり時間をかけて川に流れ込むようになる。

【江原委員】　多摩川では災害時に伏流水を利用できる井戸があり、閉鎖されているところもあるが、そういったことも事業の一環ではないかと思う。

【堀委員】　川崎市の水利用について、飲料水は相模川水系から供給されているが、多摩川からは供給されていない。工業用水と農業用水の利用状況について、川崎市はどのくらい依存しているのか具体的な情報は提供されていないが、IT 関連企業も含めた工業用水の利用はどのくらいあるのか。

【事務局】　上下水道局が臨海部への送水ポンプの管理をしているので、次回に回答できるように問い合わせる。また、令和 3 年度末現在の給水事業所数が 58 社 78 工場で、1 日当たりの契約水量 51 万 5470 立方メートル。これまでの推移について、今後お示ししたい。

【堀委員】　工業の面では、多摩川の水は利権的にどのくらい問題なく使えているのか。

【寺尾委員】　工業用水は長沢浄水場経由でいいのか。

【事務局】　確認する。

【吉冨委員長】　水循環の動き、特に目に見えない部分（雨水の貯留、浸透、蒸発など）を理解することが重要。これを達成するためには、各テーマについての勉強会や教育副読本などの資料を活用することが有用。

◆５．水循環の事例について

【小野委員】　全国に水循環に関するプランがある。一度ピックアップしてどんな施策があるか確認していただくと考えが広がるのでないか。

【吉冨委員長】　全国の自治体等の水循環に関する取組の事例集が公開されており、地下水、水質汚染、水防災、雨水の活用など、多様な観点から取組が紹介されている。このような事例集は今後の方針を考える上で参考になると思う。

◆６．グリーンインフラの推進について

【水庭副委員長】　水循環の取組として、アスファルトやコンクリートで雨水を川に流す代わりに、緑地を広げるのはどうか。グリーンインフラは社会資本としても重要視されているので、行政にもこの取組を推進してほしい。

＜議事(2) 令和 5 年度新多摩川プラン実施事業報告書について＞

【事務局】　（資料に基づき説明）

【堀委員】　11 ページの「つながりを深めて魅力的な流域へ」に多摩川河川敷の新たな利活用に向けた社会実験とあり、登戸地区および小田急高架下とあるが、ここは小田急「線」高架下とした方が良いかと思う。

【事務局】　開催日のところに実施場所を書いてしまっているため、校正段階で併せて修正したい。

【寺尾委員】　4-19 の「サイクリングコースの充実」という表記がちょっと引っかかる。かわさき多摩川ふれあいロードという名称にしたのでそちらを表記するのはどうか。

【事務局】　平成 28 年にできた新多摩川プランにおける施策名称をそのまま表示している。併記という形にはなるが、事務局の方でわかりやすい表現にしたい。

【寺尾委員】　ふれあいロードの路面標示が削られている。硬いゴム製の板に注意事項が書いてあるのが、日光で褪色していてほとんど見えない。何回か要望しているが、その修復の進捗はどうなっているか。

【事務局】　ふれあいロードのマナー啓発の一環として、スピード抑制の路面標示やハンプ設置などの対策は行っているが、そこを避けて通る利用者もいることから、他都市の状況を参考にしながら、舗装形態の改善や劣化しにくい表示方法など、より効果的な対策を検討していく方針。路面表示が破損している個所は、補修していく。

【吉冨委員長】　事故などに関わる重要な事項。次回また報告してほしい。

【江原委員】　8 ページの管理水準の向上に関するアンケート調査について、内容と結果を具体的に示してほしい。毎年のアンケートの推移や状況を含めた情報がある場合は、それを QR コードなどでリンクを設置し提供するのはどうか。

【事務局】　河川敷の施設の利用状況を調査中で、トイレや水道の状況、高齢者の利用向けの施策などを評価するために、QR コードを通じたアンケートを実施している。12 月末から 3 月末まで行っている。結果は来年度にまとめ、利用傾向を分析する予定。結果については報告する。

【五十嵐委員】　学校での環境学習について、オンラインとオフラインの両方で進めてほしい。川崎市の小学生はパソコンを持っており、オンラインでの学習も推進して、学校の子どもたちに川の上流や中流の自然環境が分かるようにしたい。子供たちが「自分の知りたいようなところに行った環境」というようなことができれば多摩川全体を理解し、歴史も分かる。

【事務局】　小中学生向けの環境副読本はオンライン化できている。映像紹介や川崎の生き物についてはGIGA端末で見られるようになっている。今後もこのような取組事例を把握し、会議においても意見を伺っていきたい。
【小野委員】　実施事業一覧のページについて、冊子としてはこれでいいのだろうが、委員会向けの資料として、進行状況や結果も一目で分かるような構成にしてみてはどうか。また、完了したプロジェクトについては期待した効果を得られたかどうかの分析も併せて行うことで、それを基に次のプロジェクトの計画を立てる指標となるのではないか。
【事務局】　効果を検証したうえで、今度どうしていくかをご提示できれば良いと思う。
【水庭副委員長】　先程の水循環や流域治水の話に加えて、例えば「多摩川を知り災害から市民を守る」や「水と緑のネットワーク」に、グリーンインフラや水循環といったキーワードも取り入れると、水と私たち市民の暮らしの関係をより強く認識できるのではないか。
【事務局】　水と緑のネットワークにおいては、水を蓄える機能のあるエリア整備も含まれる。水循環やグリーンインフラなどのキーワードは、今後の校正で反映可能かどうか検討したい。
【吉冨委員長】　グリーンインフラはキーワードであり、今の段階から資料に入れていくのがよいだろう。
【江原委員】　例年の取組と新たなプロジェクトについての情報をもっと明確に区別したほうが良いと感じる。今後のプラン検討に際して、毎年の活動やイベント、社会実験などをより明瞭に整理し、報告書を分かりやすく改善する必要があるのではないか。
【吉冨委員長】　重点的に取り組む項目や、年ごとの特徴が分かりやすくなると良い。
【吉冨委員長】　コラムの執筆者である寺尾委員の名前表記の取り扱いは、どのように考えるか。
【事務局】　寺尾委員と相談して進める。推進会議から寄せられた、子供が読んで楽しめると良いという意見を反映するにあたって、寺尾委員にも相談して実現したページである。
【堀越委員代理】　全国の河川で「流域治水プロジェクト」が令和2年度に始まり、グリーンインフラという言葉が使われだしたのも比較的最近のこと。今回の意見は川崎市へのものだが、国も一緒になって取り組んでいきたい。また、令和元年のような出水がないと河川に関心を持たない市民も多くいる。その中で川崎市には3校も水辺の楽校が存在し、子供のうちから川に関心を持ってもらう取組を行っており、それはとても大切なことと感じている。また、丸子の社会実験などは、全国でも率先してやっていることと思われる。このように川崎市は河川に興味を持ってもらう取組を積極的に行っている市だと思う。このような取組から河川に興味を持ってもらうことで、流域治水の意識向上につながることを期待したい。